

## 富山県医療審議会及び富山県医療対策協議会 議事要旨

開催日時	平成 28 年 3 月 25 日（金） 13:00～14:30			
開催場所	富山県庁 4 階大ホール			
出席者	医療審議会委員	24 名中	出席 18 名	代理 2 名 欠席 4 名
	医療対策協議会委員	25 名中	出席 23 名	代理 1 名 欠席 1 名
	（うち重複	16 名	14 名	1 名 1 名）

### 議事要旨

- 1 開会
- 2 挨拶（井内厚生部長）
- 3 議題

#### （1）富山県医療計画の推進について

【資料に基づき県から内容を説明した後、質疑応答】  
（意見・質問なし）

#### （2）平成 28 年度富山県地域医療介護総合確保基金事業計画案について

【資料に基づき県から内容を説明した後、質疑応答】

- （委員）認定看護師教育課程運営事業に特定行為の研修の予算は含まれているのか。
- （事務局）特定行為の研修機関は要件が大変厳しく、実施機関について調整中であり、今回の予算には含まれていない。
- （委員）イーラーニングも始まっており、実施機関は大規模な病院でなくてもよいということになってきている。来年度まで待たなくてはいけないのか、勝手に始めてもよいのか。
- （事務局）対応の可否等を調整中であり関係機関と相談していきたい。

審議の結果、平成 28 年度富山県地域医療介護総合確保基金事業計画について異議のない旨の意見とすることに決定した。

#### （3）地域医療構想の検討状況について

【資料に基づき県から内容を説明した後、質疑応答】

- （会長）各医療圏からたくさん意見が出ているようだが、非常に難しい要望で、抽象的な言葉で議論をしてもなかなか煮詰まらない。バランスの取れた質の良い医療を、医療費を上げずにやってほしいというのは非常に難しい。意見の言いっぱなしではなく、内容を煮詰める調整会議にしたい。
- （委員）国が決めたことなので大筋は守らないといけないのだろうが、このとおりにやると現場は大混乱する。看護部門で危機感を覚えているのは、7対1看護の関係などで次年度以降の新卒の看護師の就職先がないのではないかとということ。県立大学に看護学部が新設されるが同じような状況だろうと思う。看護は継続で成り立

っていくものなので、新卒看護師の雇用が止まると継続性が欠けて将来に大きな問題を残す。そのような事態にならないように対応していただきたい。

(事務局) 現状では看護師の雇用数の減少について予測しかねるが、地域医療構想だけでなく診療報酬の改定等も含めて医療提供体制の変化を踏まえたうえで、医療人材の確保・育成をトータルで判断していくことになる。県が行った看護の需給調査では、まだ看護師は不足している。県立大学の看護学部新設等も含めて取り組みを続けていけば、5～6年後には全体で均衡するのではないかと考えている。

(委員) 今年、7対1看護体制の重症度、医療・看護必要度が15%から25%に上がった。2年後にまた上がることが予想され、必然的に高度急性期の病床数を減らさざるを得ず、それに伴い看護師の採用を止めざるを得なくなるだろう。急速にやられると、現場は調整する期間が全くなく非常に大きな問題になる。看護師が減ることは、安全面で大きな問題であり、医療の質が落ちることも懸念される。ぜひ慎重にしていきたい。

(会長) 各医療機関では、まだ看護師は不足している。

(委員) 看護師は既に雇用しているので、7対1から10対1になると人員が余って新規採用で雇用できなくなる。これは非常に大きな問題と考える。

(委員) 先ほどの特定行為の話と同調して動くべきで、富山大学に何を求めるのか、県立大学が何をするのかについて、今からやっていかないと間に合わない。先ほどの意見とかみ合わせてきちんとした計画作成をしなければ、不安だけが増していく。特定行為の手順書の中には在宅医療に関わることも含まれているので、十分に理解をしたうえで今から対応していただきたい。そういう意味の5～6年であればいいと思う。

(事務局) 持続可能でバランスの取れた医療の推進のため、診療報酬改定で7対1看護体制の基準を上げてきている。それによって7対1看護体制を維持できない病院が発生するのではないかとというのはご指摘のとおり。ただ、看護師の就職には複合的な要因がある。看護師の需要は病院だけではない。特に最近是在宅医療や訪問看護でのニーズが高まってきていることが県の調査結果でも判明している。7対1看護体制を採用する病院の減少で看護師の雇用が減るとは一概に言い切れず、今後の推移を見ていかなくてはいけない。県独自の需給調査も行っている。特定行為については、全国で養成できる施設が14カ所しかない。それは、必要な人員をそろえるのが難しいためであり、大学であってもすぐにできるものではない。現時点では具体的なプランを立てられないという判断で予算を組んでいない。育成方針、スタッフ確保、実施機関の決定などについて、看護協会や大学と調整したうえで、方針を出したい。

(委員) 今年の7月の病床機能報告では、まだ調整会議が終わっていないと思うので、病院独自の考えで提出してよいか。

(事務局) 問題ない。

(委員) 公立病院改革プランを作成しなくてはならないが、地域医療構想が固まらないと作成できないので、時間的な余裕ができるようにまとめていただきたい。

(事務局) 地域医療構想策定後に公的病院改革プランを作成するのではなく、並行して作っ

ていきたいと考えている。各地域の各病院がどういった病院を作っていくのかということ踏まえたうえでの構想であり、また、地域医療構想だけを策定すると数字が独り歩きしてしまうこともあるので、よろしくお願ひしたい。

- (会 長) それは、各病院からある程度報告が出た後、調整して計画を出すということか。
- (事 務 局) 3月末までに各地域調整会議の2回目が終わるので、その後、各病院の考えを聞きながら進めていきたいと考えている。
- (会 長) そのあたりは、どの公的病院もナーバスになっているので、十分調整していただきたい。
- (委 員) 今回の診療報酬改定で医療の現場が混乱していると聞いている。7対1看護体制においては、重症度、医療・看護必要度が25%になったということで、病棟編成や病床数の見直しが各病院で進められているとも聞いている。病棟での看護師の必要数は減るかもしれないが、地域包括ケアシステムの推進の方は人員が必要である。たとえば、退院後訪問や退院支援加算などで、外来での看護師の充実が必要になってくるだろう。そういったところを積極的に進めていってもらえればよいと思う。
- (会 長) 病院が外へ出ていく誘導をしているというのは事実のようである。そういうところに看護人材が必要になってくること、医療現場ではまだまだ看護人材が不足していることも事実だ。激変は混乱を生むから、徐々に移行していく動向のようである。
- (委 員) 7対1の看護体制を維持できなくなると、若い大事な人たちが県外に流出するのではないかという心配がある。全ての看護師が高度急性期や急性期を望んでいるわけではないが、たくさん養成しても富山県から人材流出が起こるのではないか。また、考える時間は少ないのではないかと危惧している。
- (事 務 局) 県外で看護師が不足し県内で看護師が足りているという場合には県外流出もあるだろうが、県内は看護師不足という認識である。将来看護師が過剰になると明らかなかわけでもない。今までは不足の話だけだったが、現在は看護師過剰の危機感が出てきたという変化は認識している。現在、県内で養成した看護師は高い率で県内に残っている。県立看護大学の設置は、看護大学進学のための県外流出が一定数あるので、その方々を県内にとどめたいという趣旨でもある。ご意見を踏まえながら対応したい。
- (会 長) 看護大学新設は、県外の看護大学に県内の高校卒業生が流出し戻ってきていないという事実を把握したうえでのことである。県内に看護大学を作れば県外に流出しないとは言い切れないが、少なくとも県内の看護大学を志望した学生が県内にとどまってくれるという期待はある。
- (委 員) 地域医療構想は2025年の話であり、その頃にどうなるのかということも考慮しながらやるべき。そもそも、高齢化に伴い急性期そのものの考え方も見直す必要があるだろう。また、今からの時代の、入院、外来、在宅それぞれの本来の在り方を考え、従来の在り方を見直す時期だと思う。来年どうなるかではなく、もっと先のことを考えながら、地域で持続できる医療やヘルスケア全体を考えていくべき。またそれぞれの職種のキャリアパスの問題もある。従来の項目での事業の

予算に加え、コンセンサスを得たり、将来を考えたりするための、いわば企画の部分の予算も考えていただければと思う。30～40年先のことも考えて動いた方がいいのではないか。

(委員) 今後の高齢化、女性の活躍推進、労働人口の減少を考えると、看護や介護は自分たちでできない可能性が高くなっていき、医療従事者の不足は続くという見方もできる。遠い将来のことを見据えた若い世代に残していく仕組みを全体的に考えてもらいたい。

(事務局) 県では独自のアンケート調査を行って富山県の現状をつかみ、また、各医療機関にアンケート調査の結果を送付している。4月以降は、それらを踏まえて各医療機関が地域において果たす機能について意見交換を重ねて、病床、人材確保、地域連携など多面的に議論をしていきたい。

## 4 報告

### ・富山県精神科救急医療体制の見直しについて

【資料に基づき県から内容を説明した後、質疑応答】

(意見・質問なし)

## 5 閉会